

令和4年度第1回下田地区協議会 会議録（概要）

●会議を開催した日時及び場所

日 時 令和4年7月28日（木） 午前10時00分～11時32分
場 所 下田公民館 2階 多目的ホール

●委員（◎会長、○副会長）

出席委員（11人）

渡辺 定一 小浦方 正美 坂井 利彦 ○飯塚 聡
◎清水 昭 五十嵐 愛子 西潟 芳博 坂井 英樹
西川 亙 堀江 ユミ 小浦方 文之

欠席委員（3人）

坂内 春彦 近藤 昌志 横山 梓

●出席者 三條市

総務部長 笹川 浩志

市民部長 上原 勝善

政策推進課 課長 米持 克広

地域経営課 課長 小島 孝也

下田サービスセンター長 長谷川考基

地域経営課 課長補佐 新田 泰章

政策推進課 政策推進係 係長 中村 拓也

主任 吉田 玲子 主任 田村 諭 主事 波塚 由香里

下田サービスセンター 総務グループ 主任 長谷川 祐二 一般任用主事 西脇 舜

地域経営課 地域振興係 主事 宮嶋 大樹

●傍聴者

なし

●報道機関

三條新聞社

●内 容

- 1 開 会（午前10時開会）
- 2 出席者紹介

3 議 事

(1) 副会長の選出について

副会長に飯塚委員を選出

(2) 行政評価に基づく令和3年度事後評価について

(米持政策推進課長 説明)

資料No. 1-3により行政評価に基づく令和3年度事後評価について説明

～質 疑～

(小浦方(文)委員)

昨年5月の下田地区協議会において、市長へ三条市の認知度を向上させるため、観光大使に高橋克実さん、プロ野球選手の金子千尋選手を選任してはどうかと提案したところ、市長から三条市は観光大使を設置することによる伸び代があるので、今後取り組んでいきたいという回答をいただいた。一昨日の報道で高橋克実さんが観光大使に選任されたことを知り、取組の姿勢とスピードを評価したい。今後は金子千尋選手の選任についても検討してほしい。

資料No. 1-3の1ページ中の若年層の転出抑制について、評価項目内の三条市立大学設置の主な取組の点で、地元企業が求める人材育成をし、地元企業への就職を促進していくという当初の目的があり、市内からの入学者が40%に対して目標値の16.3%を満たすとのことだが、ここから2点確認させてほしい。

1点目は県外の高校訪問について、県外の高校はどちらに訪問しているのか。

2点目は成果指標が適当ではなかったと記載しているが、現在の指標の2点は設立当初の目的と捉えており、成果指標から外すべきではないと考える。これについては、市民の方々も同じように捉えている方も多いのではないかと。このデータを公表するとなれば、表現を見直すべきではないかと。また、この成果指標を除外するのであれば今後の具体的な取組を示すべきではないかと。

(米持政策推進課長)

1点目の県外高校の訪問について、詳細は把握していないが、福島県の高校など、学長自らが全国の高校を訪問し説明等を行っている。

2点目の成果指標について、成果指標を全て取り下げるといったものではなく、地元企業へ有利な人材の輩出及び大学の持続可能性を考慮すると40%という目標値にこだわりすぎるのは適当ではないという結果となった。これにより、当初の目的であった40%という目標値は必ずしも今後追い求めないが、若年層の転出抑制につながる手段として、三条市立大学の存在を積極的に活用していきたい。

また、PRアンバサダーの高橋克実さんについては第1号であり、今後も三条市観光大使などを選任する取組は継続して行う。

(小浦方(文)委員)

全国的に大学の入学者が減っている中で、三条市立大学を設置する目的は、入学者に三条市の企業に対して理解を深めてもらい、最終的には地元企業に就職してもらうことであり、若者の転出抑制というのは結果で表れるものであると考えている。あくまでも三条市のためとなる大学であってほしい。市民もそう捉えている方は多いのでは。

(米持政策推進課長)

三条市立大学には市外から入学する人もいる。市外から入学する人を留めて、地域のアイデンティティである製造業を更に発展させていくための人材を育成し、地元企業へ就職してもらうという目的もあることを留意していきたい。

(堀江委員)

少子化について、三條新聞を見ている限りでは下田地区で今年に入ってから出生児がほとんどいない。更なる少子化対策を期待する。

また、昨年指摘した下田 SC の職員のあいさつが悪かった件については改善が見られた。

(3) 三条市総合計画の策定について

(米持政策推進課長 説明)

資料 No. 2 により三条市総合計画の策定について説明

～質疑なし～

(4) 辺地総合整備計画について、過疎地域持続的発展計画について

(小島地域経営課長 説明)

資料 No. 3 により辺地総合整備計画及び過疎地域持続的発展計画について説明

～質 疑～

(坂井 (利) 委員)

資料 No. 3 「辺地総合計画について」の 5 ページ中の 2 「公共施設等の整備計画令和 3 年度から令和 5 年度まで」について、番号 2 「消防団ポンプ置場建築事業 (早水)」については完成済であるが、番号 3 及び 4 の着工時期について教えてほしい。

(小島地域経営課長)

今年度中に着工する。

(渡辺委員)

「三条市過疎地域持続的発展計画」30 ページ第 10 章「集落の整備」について、農林土木事業で農業用水の修繕等を集落で依頼してもスムーズにいかないことが多い。こういった事業にも当てはめることはできないか。

(小島地域経営課長)

集落内の工事事業については、それぞれ所管課でどういった順番や予算の配分で進めていくということは考慮していると考えます。すぐには着手できないこともあるとは思いますが、逐次所管課に提出していただきたい。

(坂井 (利) 委員)

農林土木事業の補助率を上げてほしい。

(小島地域経営課長)

即答はできない。持ち帰って検討する。

4 その他

(米持政策推進課長)

(当日欠席の横山委員から事前に頂戴した御意見を紹介)

ハッピーボランティア制度について、物価高騰や年金が下がる中、謝礼の賃上げを行ってはどうか。

また、ヒメサユリについて観覧する場所や機会が少なくなっている。ヒメサユリを観覧できる場所を整備することで、多くの方から地域の魅力を知ってもらいきっかけになるのではという御意見をいただいた。

本日の御意見に関しては、午後からの栄地区協議会及び明日の三条地区協議会で出た御意見と併せて所管課に確認を行い、後日改めて皆様にお知らせする。

(西川委員)

下田地区の公共施設について、下田体育館の老朽化が進んでいるので改修してほしい。いい湯らていについても、温泉の水質が落ちていのように感じる。コロナ禍でいい湯らていの来場者は減る一方だが、八十里越の開通に向けて施設の改修をしてはどうか。下田地区の入り口である五十嵐川の高岡から滝谷にかけても、草木が生い茂り景観が悪いので除草等の対応をしてほしい。

また、大浦小学校について全校生徒数が50人を切っている。地域の子どもと触れ合う機会も少なくなっているため、地域の方々に集まることのできるような環境整備をしてほしい。

(笹川総務部長)

五十嵐川については県の管轄である。持ち帰って建設課から三条地域振興局に話をしよう伝える。五十嵐川の草木については、下田地区のみではなく、三条地区でも同じクレームが市民から届いている。

施設の改修については、利用する方々に不快感を与えないよう最低限必要な維持管理をしていく。本日いただいた御意見については持ち帰って各課で検討する。

5 閉 会 (11時32分閉会)